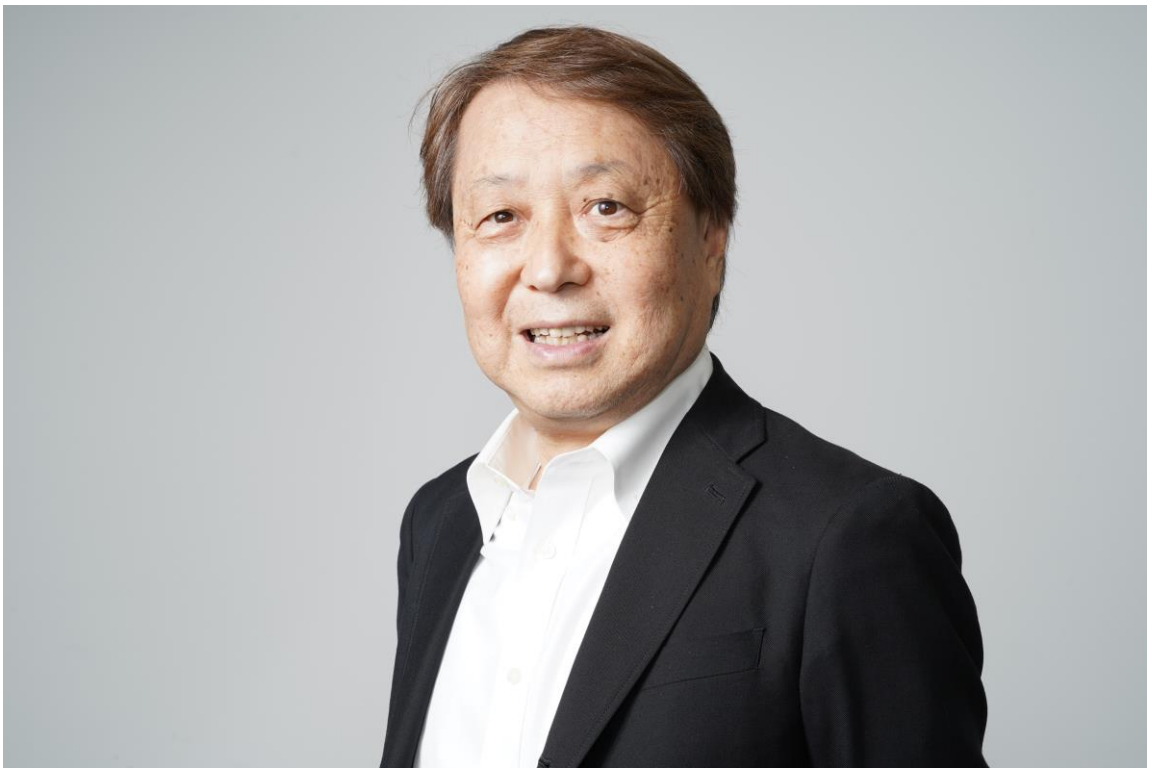
もくれん 木蓮

第121号
２023年６月27日

◆ 発 行 ◆
名古屋労災職業病研究会
名古屋市昭和区山手通 5-33-1　杉浦医院 4 階
TEL＆FAX：052-837-7420
e-mail：roushokuken@be.to
http://nagoya-rosai.com/



６１歳の時に本格的にピアノを始めた吉永滝雄さんは、７６歳になった現在、胸膜中皮腫の治療を受けながら来年１月の発表会に向けてラフマニノフの練習を重ねています。（２０２３年４月１９日浜松市内　関連記事 P2～P8）

121 号目次

- 金型製作会社元社長のピアノレッスン　～悪性胸膜中皮腫の治療を続ける吉永滝雄さん～　Ｐ ２ ～ Ｐ ８
- 省庁交渉と院内集会の報告　Ｐ ９ ～ Ｐ 11
- 報告：院内集会『労災被災者の生活と権利を守り　労災保険料のメリット制の廃止を!!』　Ｐ 12 ～ Ｐ 13
- 第 10 回名古屋出入国在留管理局と東海在日外国人支援ネットワークとの意見交換会　Ｐ 14 ～ Ｐ 15
- 広岡法浄さんを偲ぶ会　Ｐ 15 ～ Ｐ 16
- 酒は飲んでも飲まれるな！　Ｐ 17
- ２０２３年４月名古屋市会議員選挙を振り返って　Ｐ 18 ～ Ｐ 19
- 事務局からのお知らせ　Ｐ 20

金型製作会社元社長のピアノレッスン

悪性胸膜中皮腫の治療を続ける吉永滝雄さん

昨年１０月２７日に悪性胸膜中皮腫の病名告知を受けた吉永滝雄さん（７５歳）は、今年１月１５日にクリエート浜松で行われたピアノ教室の発表会で、ショパンのノクターン第２番を演奏しました。発表会では、コンサートピアノの鍵盤を弾きましたが素晴らしいと感じました。吉永さんは、自宅マンションに作った防音室にあるグランドピアノで練習を重ね、１年かけてショパンを準備してきました。途中で中皮腫を発症していることが発覚し、医師より余命は半年から１年半と伝えられたことから、来年の発表会に出ることが出来ないかもしれないという思いがありました。今は、無事に発表会でピアノを弾くことができ喜んでいます。発表会では、自らピアノの先生にやっても良いですかと売り込み、クラッシックギターで「禁じられた遊び」も演奏しました。吉永さんのギター演奏を聞いて、後日、若い頃に、ギターをやっていたので、来年は、子供と一緒に演奏したいという親御さんが出てきたと、ピアノの先生が喜んで教えてくれました。発表会の後、吉永さんは、ピアノ教室の先生に「今日は、楽しい発表会ありがとうございました。演奏の内容はともあれ、音楽を愛するお仲間のなかにいることに感謝します。先生の気配り、演出大変おつかれさまでした。来年ももう少しうまくなって出たい気まんまんです」とラインを送りました。ピアノの先生からは、「今日はお疲れ様でした。ギター、ピアノ素晴らしい演奏ありがとうございました。こちらこそ感謝で一杯です。また、来年に向けて楽しく充実したレッスンを続けていきましょう。ゆっくり休んでください」というラインが届きました。吉永さんは、来年、もう一回ピアノの発表会に出ることを目標にして今年は生きようと決めて、ラフマニノフのパガニーニの主題による変奏曲第１８番変奏を練習し、ギターは、フランシスコ・タレガのアデリータと涙（ラグリマ）を練習しています。来年の発表会は１月１３日ですが、途中で倒れてしまっても、動画を撮っておいて動画出演しますとピアノの先生に伝えてあります。大きな目標を決めるより半年後、来年と目標を決めていくのが良いと考えており、最近、肉体の衰えを感じていることから、スポーツクラブ通いを再開したいと思っています。

吉永さんは、６１歳で本格的にピアノを始めました。２００９年に埼玉県で自身が社長を務め経営していた自動車部品の金型を製作する会社を閉め、妻と離婚し、子供達と別れ、単身、お姉さんが住む浜松に移住した時でした。会社を閉めた理由は、リーマンショックで発注が半分になり、株主総会で会社の閉鎖が決議されたからでした。吉永さんの社長就任以来、NC マシニングセンタを導入し、3D プログラムでの金型自動製作を行っていたことから、リーマンショックが起きる前の会社の売り上げは、以前に比べ大幅に伸びていました。吉永さんは、数年持ち堪えれば、まだ、会社の経営を継続できると考えていましたが、会長らの方針に抗うことは出来ませんでした。従業員に退職金を渡し、会社で最後の朝礼を行った日の夜、宿泊していたホテルで心筋梗塞を発症し倒れ、病院に救急搬送されました。翌日には、浜松に向けて出立する予定で、すでに新幹線の指定券を買っていました。吉永さんは、今でも、倒れた時に持っていた浜松までの切符を記念に持っています。埼玉県での緊急心臓カテーテル手術の後、埼玉でさらに１回、浜松で２回のカテーテル手術を受けた吉永さんの心臓には、９本のバルーンステントが入っています。家族と別れ、会社を失い、心筋梗塞を患い、両手に紙袋２つを持って、吉永さんは浜松駅に降り立ちました。一人で生きていくには何か拠りどころがなければと思いました。どうやって生きたらいいか、ただ生きているだけでは死んでいるのと同じと考え、１０個の生きる目的、１０個の死ぬまでにやることリスト（１

０バケットリスト）を作り、その中にピアノを入れました。１０バケットリストのアイデアは、吉永さんが会社を経営していた時に映画館で見た、ロブ・ライナー監督のアメリカ映画『最高の人生の見つけ方（原題：The Bucket List)』から着想を得ました。この映画では、ジャック・ニコルソンとモーガン・フリーマン演じる、病室で偶然出会った余命６か月を宣告された二人の男が、死ぬ前にやり残したことを実現するために二人で冒険にでる姿が描かれます。

吉永さんには、もう一つ人生の指針になったアメリカ映画があります。ピーター・ウィアー監督のアメリカ映画『いまを生きる（原題: Dead Poets Society)』です。吉永さんは、この映画を浜松に来たばかりの頃、BS テレビで見ました。厳格な名門の全寮制学校に赴任してきたロビン・ウィリアムス演じる型破りな英語教師と生徒達の交流や成長を描いたこの映画では、紀元前１世紀の古代ローマ詩人ホラティウスの詩に登場するラテン語「Carpe diem、カルペ・ディエム」という語句を英語教師が生徒たちに伝えるシーンが登場します。Carpe diem は、「今日という日の花をつかめ」、すなわち、「今この瞬間を楽しめ、大切にしろ」などの意味が込められた言葉です。英語では「Seize the day」、「その日をつかめ」、又は、「この日をつかめ」とも訳され、３０年前、筆者がメルボルンで生活していた頃、地元新聞 THE AGE のテレビコマーシャルでこの語句が使われていて、なんのこっちゃと思って見ていた記憶があります。浜松での生活を始めた吉永さんは、この映画を見て、過去は過去でどうしようもない。未来は未来で分からないことをいくら悩んでもしょうがない。現実的に何かが出来るのは今しかないと考えました。吉永さんは、Carpe diem（カルペ・ディエム)、「今を生きる」を浜松に来て以来ずっと続けていると言います。

浜松に移住し、Carpe diem に気付いた頃の吉永さんは、日記に、小川のせせらぎの音や遠くに見える山並、青い空、雲、花、田んぼで見た白鷺など、いままで感じたことのない、現実を見た時に感じる毎日の感動を記していったといいます。店屋物ばかりだった社長時代とは一転して、料理も自分でするようになりました。夕食の献立を考えるのは日課ですが、お皿の上にこうしようと絵が頭の中に思い浮かびます。「ポトフでもビーフストロガノフでも、作りたいと思ったものをググれば（インターネットで検索すれば)、作り方が何でも出てきちゃうから便利」ということでした。筆者とのインタビューに同席してくれた、現在、吉永さんと日常生活の多くの時間を共に過ごしているパートナーは、「最初、出会った時は、こんなに料理できる人なのと思ったけど、その前は全然やってなかったと聞いて驚いた」と話してくれました。パートナーとは、かつて通っていた社交ダンス教室で知り合いました。

１０バケットリストにピアノを入れた吉永さんは、アップライトピアノを購入しても途中で止めてしまう、グランドピアノであれば、何百万円も投資することになり途中で止めないだろうと考え、グランドピアノを購入しました。そして、移住に際して住むところだけは確保しなければと埼玉で入院していた時に購入した浜松市内のマンションの一室を内装業者に依頼し、防音室に改造しました。埼玉県での社長時代、吉永さんは１年３６３日働いていたと言います。それぐらいやらなければダメだと思い、正月だけ休み、除夜の鐘は会社で聞いていました。それでも事務所の棚に１万円か２万円程のキーボードを置き、誰もいない時に弾いていました。１か月に１回、島村楽器やカワイの音楽教室で弾くグランドピアノは指の感覚がめちゃくちゃいい、音もこんなにいいのかと感じていましたが、浜松に来て思い切ってグランドピアノを買う事が出来ました。

ピアノを本格的に始めた頃、なかなか吉永さんに合う先生が見つかりませんでしたが、３人目のヤマハ音楽教室の女性の先生は、練習してこなくていいわよ、ただここにきて話をするだけでもいいわよというという指導のスタンスで、気軽にレッスンに通うことが出来、吉永さんにぴったり合う先生でした。１０年以上、この先生のレッスンを受けていましたが、

新型コロナウイルスのパンデミックが始まり、教室に通うことが出来なくなったことから、一昨年に退会しました。ヤマハ音楽教室の頃は、各教室のレベルが非常に高く、気楽に通いたかった吉永さんは発表会に出ることを断っていました。退会後、しばらく、一人でピアノを続けていましたが、朝のウォーキングの最中、自宅の半径１００ｍ以内に５、６軒のピアノ教室があることに気が付きました。良さそうなピアノ教室に電話をしたところ、一度、遊びに来てくださいと言われ訪問したところ、良さそうな先生だったので習うことにし、２０２１年１０月に入会しました。驚いたことに、随分後になって、このピアノの先生が、吉永さんの姉の娘さんの小中学校の同級生であることが分かりました。

自宅から徒歩１０分程のところにあるピアノ教室の先生から、１月に発表会がありますが演奏しますかと聞かれた吉永さんは、発表会に出ることを決め、急遽２か月間、生まれて初めての発表会に向けてリチャード・クレイダーマンの秋のささやきを猛練習することになりました。この時は朝練もしました。発表会に出ようと思ったのは、町中のピアノ教室の発表会では、小さい子供達も多く出るので、上手い下手関係なく皆で集まってわいわいやれると思ったからでした。もちろん、発表会で吉永さんは最年長者でした。

無声映画全盛の時代、映画館には映写機の他、ピアノやオルガンが置いてあり、映像とともに弁士がストーリーを語り、楽士が音楽演奏をしていました。明治生まれの吉永さんの父親は、戦前に映画館で楽士をしていたことがあり、東京の自宅にはピアノとバイオリンがありました。父親の実父は弁護士で兄は裁判官でした。吉永さんの父親には、実父から、「音楽家、美術家は、金と暇と後援がなければなれない。お前みたいに何もないやつは絶対上手くいかない」と言われたうえ、バイオリンを叩き割られた経験がありました。吉永さんの父親はそれが悔しく、働きながら音楽学校に通い、無声映画館の楽士として生計を立てた人でした。先見の明があり、甘いものが不足していた終戦後は菓子問屋をやり行商で稼いだりしていましたが、吉永さんが物心ついた頃には、アパート経営をして家族を養っていました。吉永さんが２０歳の頃、学生時代は軽音楽部にいて、サックスを吹いていましたが、家に帰ると左手でコード、右手でメロディーというように独学でピアノの鍵盤を弾き、ピアノいいなと思いながら遊んでいました。

吉永さんの病状は、一度に２つの癌が見つかる、いわゆるダブルキャンサーと呼ばれる状態です。一昨年１２月、おしっこの出が悪くなったことから、町中の泌尿器科を受診したところ前立腺肥大が見つかり、大きな病院で診てもらうことを勧められました。昨年１月、聖隷浜松病院で検査をしたところ、前立腺がんが見つかり、転移を調べる為ＣＴと MRI 画像検査を行ったところ、右肺に異常が見つかりました。５月に呼吸器内科に移され、全身麻酔下で胸腔鏡検査を受け、医師から中皮腫の可能性が高いといわれました。最終的に聖隷浜松病院に入院して、右脇を切り、腫瘍細胞を採取する外科的検査を行い、昨年１０月２７日に肉腫型の悪性胸膜中皮腫の診断を受けました。中皮腫という病名を始めて聞いた吉永さんは、インターネットで情報を集めました。そして、治療法が限られている事や、半年から１年半がだいたいの患者の寿命ということを知りました。前立腺がんの治療については、内分泌療法（ホルモン療法）を受けています。

医師からの病名告知は、パートナーとともに聞きました。病名告知の時、卒倒してしまう患者もいることから、その時はそばに看護師さんが３人控えていました。吉永さんは、心筋梗塞で一度、死に損なっていたので、病名告知は冷静に受け止めたと言います。そして、余命の半年か１年半、思い切って充実した人生を生きてやると覚悟を決め、終活を徹底的にやることにしました。

吉永さんには、半年で逝くかもしれないし、半年のうち２、３か月は意識不明になる可能性があるという思いがあり、１週間くらいで通夜と葬儀で流すエンディングテーマを決めま

した。出棺の時の音楽は、シークレットガーデンの You Raise Me Up を選曲しました。そして、葬儀社、遺言書、お墓、遺影、家の中の直し、預金関係の整理等を行いました。葬儀社が見積もりを持ってきた時、吉永さんは、遺影とお通夜と葬儀の時に出すお弁当が気に入らず、そのことを営業社員に伝えました。上司の課長に掛け合ってもらいましたが却下ということで遺影は自分でカメラマンに依頼をして撮影をしてもらい、弁当はスーパーの特大大盛弁当のようなものでなく、吉永さんがプロデュースした折重に入っているお弁当をパートナーが注文することになりました。葬儀の喪主はお兄さんに勤めてもらい、葬儀委員長はパートナーに勤めてもらうことを決めています。葬儀を執り行い永代供養してもらう寺院も決め、すっきりしてしまったと言い、もし、長く生きた場合は、それは違う人生、なんらかの形で社会貢献したいと考えています。吉永さんは、ご自身の終活の一環として、労災請求を行うことにして、その過程で中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会にコンタクトを取り相談され、筆者が関わることになりました。十数年前に別れた娘さんへも久しぶりにコンタクトを取り自身の病状について話しました。その時、孫が東京芸術大学音楽学部を受験することを知りました。今春、孫の東京芸大入学の写真が送られてきて、凄いことをやりおるなと嬉しく思いました。奇しくも、父親と吉永さん、お孫さんの３代にとって、音楽がかけがえのないものになっていることを知った瞬間でした。

吉永さんは、京都工芸繊維大学でインテリアデザインを学びました。京都工芸繊維大学は、当時、デザイン科を有する数少ない国立大学の一つでした。デザイン科を選んだのは、後に画家になった中学時代の女性の国語の先生に可愛がられ、影響を受けたからでした。吉永さんは、自分は画家になる技量はないと考え、デザイナーという新しい分野に挑戦することにしました。若い頃、吉永さんは、ユニークな人間になりたいと考えていたといいます。１９７２年に大学を卒業し、東京芝浦電気に就職しました。キッチンや洗面台、浴槽等の住宅設備のデザイン設計に従事し、アイデアスケッチを１日に１００案考えることを続ける中でありとあらゆる物事を客観的に考える思考回路が鍛えられました。１９８０年４月には、東京都内のディスプレイ設計、施工会社に営業兼現場監督として入社し、筑波や富山、鹿児島で行われた博覧会パビリオンや東京消防庁の消防博物館、東京国際見本市会場で行われたモーターショーやオーディオフェア、グッドリビングショー、各企業のショールーム等の全体の計画作成や施工管理に携わりました。この頃、電通と仕事をすることが多くあったといいます。東京国際見本市会場でのモーターショーなどの展示会場設営は施工費３０００万円程で、期間はわずか３日間で行われました。徹夜でよれよれになりながらやっていましたが、そういうのが楽しくて仕方がなかったということでした。ディスプレイ会社で多くの計画に携わっていたので、自身の終活についても、ノートに時系列で様々なことを書きだし、業者等に一気に電話をかけて行きました。

ディスプレイ会社では、１９８５年から当時、関東地方を中心に多店舗展開をしていた家電量販店チェーン第一家庭電器株式会社（略称：第一家電）の店舗設計及び改装、新築工事の担当者になり設計や施工管理業務に従事しました。第一家電の仕事は大変忙しく、一時は、第一家電の本社内にデスクを置いて仕事をしていた程でした。

第一家電の店舗を作るために他業種の店舗を解体する時には、アスベストを含有する岩綿吸音板やケイ酸カルシウム板、プラスターボード等が使用された天井や壁を解体する工事をする必要があり、施工状況の確認をする為、吉永さんも現場に立ち入り、この時にアスベスト粉じんにばく露する機会がありました。また、解体工事の際は、鉄骨等に吹き付けられたアスベスト含有吹き付け材が露出し、粉じんが飛散したことから、アスベスト粉じんにばく露する機会がありました。店舗建設の現場管理を行うために、店舗工事現場に立ち入りましたが、作業員が店舗の壁や天井に使用するアスベスト含有成形を切断したり、電工が照明器

具やコンセント等を取り付けたりする作業の為、成形板に穴あけを行う作業をしており、間接的にアスベストにばく露する機会がありました。吉永さんは、オーディオコーナーの防音の為、壁や天井に成形板を使用していたことを記憶しています。筆者が吉永さんから預かった胸部画像データを医師に読影してもらったところ、アスベストばく露の指標となる胸膜石灰化プラーク所見があることが分かりました。

ディスプレイ会社では抜群の営業成績をあげていましたが、１９９２年５月、吉永さんは、ディスプレイ会社を退職し、妻の父親が経営していた自動車部品の金型を製造する会社を継ぎました。次男が障害を抱えており、いつまでもサラリーマンでいるのでなく、お金を作らなければと考えたからでした。昔ながらの汎用機械による製作から NC マシニングセンタを使用する３D プログラムでの金型自動製作に切りかえ、製作のスピードアップと効率化を図ったことから受注件数を飛躍的に伸ばすことが出来ました。３D プログラムによる金型自動製作を学んだのは５０歳の時でした。会社経営には、２０１９年９月まで携わりました。

今年１月から、聖隷浜松病院で吉永さんに対するオブジーボとヤーボイを３週間間隔で交互に投与する免疫チェックポイント阻害療法が始まりました。小野薬品工業のホームページによると、オプジーボとヤーボイは、T 細胞にかけられた免疫のブレーキを解除する働きがある免疫チェックポイント阻害薬で、オプジーボは PD-1、ヤーボイは CTLA-4 と呼ばれる T 細胞のアンテナにそれぞれ結びつくことで、抑制信号をブロックし、免疫のブレーキを外す効果があり、このことによって、T 細胞は、妨害を受けることなく、再びがん細胞を攻撃できるようになるということです。オプジーボ・ヤーボイ併用療法は、２種類の免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせることで、がんに対する攻撃力をさらに高め、より効果的な治療を行うために用いられています。オプジーボとヤーボイを併用する治療は、年齢、体力に関係なく選択することが出来、奏効した場合は、長期生存が期待できる治療法ですが、副作用の発見が遅れた場合は取り返しがつかないこともあり、頭痛、発熱、かゆみ、だるさ等の副作用でも病院にかかるべきと言われています。オプジーボ治療は、１回目、２回目の投与では効果がなくても３回目、４回目の投与後に効果が確認される場合もあり、効果判定は慎重に行うべき治療法だと言われています。

３月中旬、４回目のオブジーボ投与を受ける１週間前に、吉永さんにも手、足、指、肩、膝、大腿骨の付け根等、体中の関節が痛くなる免疫チェックポイント阻害療法の副作用が出現しました。３月２１日のオブジーボ投与は中止され、様子をみることになりましたが、４月１日のお昼頃ついに体中が耐えがたいほど痛くなり歩けなくなったことから、近所に住む姉に救急車を呼んでもらい、その後、２週間、聖隷浜松病院に入院することになりました。救急搬送の前夜、姉やパートナー達と自宅で夕食を共にしましたが、吉永さんだけ、気持ち悪く、食欲不振で食べることが出来ませんでした。お姉さんは、夜通し吉永さんを見てくれました。

聖隷浜松病院には、2 週間入院しましたが、呼吸器内科の主治医が内分泌疾患を疑い、内分泌内科で様々な投薬検査を受けることになりました。最終的に内分泌内科で副腎皮質機能低下症の診断が下り、以後、副腎皮質ホルモンのステロイド内服薬コートリルを朝晩服用することになりました。医師からは、３７．５度まで体温が上がった場合はコートリルの服用を１錠増やし、３８度まで体温が上がった場合はさらに増やして、2 日続いたら医療機関で治療を受けないと大変なことになると言われています。主治医は、免疫チェックポイント阻害療法をした後は、必ず内分泌の方も調べる形で治療を進めていけば、免疫チェックポイント阻害療法が継続できるだろうと言ってくれています。医師からは、吉永さんの中皮腫の進行は遅いと伝えられています。

吉永さんへのインタビューは、４月１９日に浜松アクトシティで行われました。退院した

ばかりで、歯を磨いたり、鍵を掛けたり、箸を持ったりするのにも難儀するほど手が痛くピアノやギターの練習は大事を取って休んでいるということでしたが、それでも、入院中は練習中のラフマニノフの曲のメロディーを考えてピアノが弾きたくてうずうずしてしまったと筆者に話してくれました。インタビューの前日には、かつて勤務していたディスプレイ会社の社長が東名高速道路を走り吉永さんを見舞ってくれ、一緒に食事をし、楽しい一日を過ごしたということで、労災申請をすることにより、ディスプレイ会社の社長や現在は副社長をしているかつての同僚とのつながりが出来たことに感謝していると話してくれました。

吉永さんの部屋には、１０Backet List と細マジックで書かれた黄色く変色した Ａ４のレポート用紙が貼ってあります。一番目は、カナダカルガリーへの語学留学。２０１５年１０月から３か月間、カルガリーの語学学校に通い、南米、韓国、中国、日本人の二十歳前後の若者達に交じって英語を勉強しました。クリスマスイブ、授業中に先生の許可を取り、抜け出してサンタクロースに変身し、教室の皆にプレゼントを配った時の写真を筆者に見せてくれました。

二番目は、リモデルＭｙ Home。吉永さんは、毎日、毎日、一秒、一秒感動したいと自分の部屋の改装や模様替えを続けており、自身が気に入ったおしゃれなインテリアに囲まれて生活しています。腕の良い大工さんが見つかり、現在も進行中ですが、今度は天井に照明を入れて青空を作る計画を立てています。

三番目は、サクラダ・ファミリア、スペイン旅行。吉永さんが、３０歳の時に建築家のアントニオ・ガウディーを知ったことから、カウディーが設計した現在もバルセロナで建設中のサクラダ・ファミリア教会を見に行きたいと思っていましたが、２０１７年１１月にパートナーと出かけ、実現しました。旅行前、ユーチューブで研究をしすぎて、実物を見た時は、「あれ、ユーチューブと同じだ」と思ってしまい、かえって、古い教会のほうが感動しました。食事はビンチョスやイベリコ豚の生ハムなどを楽しみました。

四番目は、マッターホルン、スイス旅行。社長時代、たまたま喫茶店で弘兼憲史の漫画、黄昏流星群の第１巻に掲載されたマッターホルンを舞台にした５０代のエリート銀行員の恋を描いた作品を読んで以来、マッターホルンに行きたいと思ってきました。２０１８年６月にパートナーと一緒に出かけ、目の前にマッターホルンが見える山の上のホテルに宿泊しました。ツアー参加者の抽選で、１番眺めの良い部屋に当たりました。吉永さんのパートナーが筆者に頂の尖ったマッターホルンの写真を見せてくれました。

五番目は、イタリアゆったり滞在。２０１９年１０月にパートナーとフィレンツェに２週間滞在しました。美術館を巡り、ダビンチ、ミケランジェロ、ラファエロ等の絵画を堪能しました。

六番目は、クロールで１０００ｍ泳ぐ。２５ｍプールを４０回、立たずに往復することになりますが、スポーツクラブのプールで挑戦しました。徐々に泳ぐ距離を上げていくことにより６５歳くらいの時に達成しました。それまで泳ぎは、得意ではありませんでした。

七番目は、スキーゆうゆう。吉永さんは７１歳からゆうゆうスキーを始めました。山の上からスピードを出さずにゆっくり滑る高齢者のスキーで、指導してくれた先生は、スキーは、上から下に降りていくものだからエネルギーをあまり使わず、高齢者にとってはとても良いスポーツと教えてくれました。コロナ禍の前は毎年２、３回、電車で乗鞍に出掛けていました。ペンションでの夜の食事会は、様々なスキー参加者が、お酒と語りを楽しむ良い集まりでした。

八番目は、御来光登山。これは、まだ、実現していませんが、ゆうゆうスキーで出会った乗鞍のペンションのオーナーからは、浜松まで車で迎えに行って、御来光が見えるところに連れて行ってあげると言われています。

コロナ禍で、吉永さん自身は、スキー旅行を控えていますが、昨年の暮れ、乗鞍のペンションに集まるスキー仲間にメロンを送ったところ、仲間達から頑張ってくれ、また、一緒にスキーを楽しもうとメッセージの書かれた寄せ書きが届き感動しました。スキー仲間には、中皮腫を発症したことをカミングアウトしています。

九番目は、クルーズ旅行。これは、コロナ禍でやめにしました。

十番目は、７５歳リサイタル、生前葬。これは昨年、クリスマスの時期から新年にかけて、自宅に２、３ 人ずつピアノグループ、ギターグループ、スポーツクラブグループ、社交ダンスグループなど、これまで交流してきた友人達を招待し、吉永さんがピアノとギターを演奏しました。プレゼントと抽選箱を準備し、プレゼント抽選会も行いました。

吉永さんは、今、新たなバケットリストを作ることを計画しています。その一つに「未来の希望と一緒に写真を撮る」を加えるつもりで、これは、「二人のお孫さんと一緒に写真を撮る」という意味です。吉永さんは、「全部実現できなくてもよくて、途中経過が素晴らしい」と筆者に話してくれました。

デザインを学んだ吉永さんにとって、デザインは、物事を客観的に見て、計画（プラン）を立てることだと言います。どういう形にもっていくか、そのためにどうしたら良いか。絵を描くとか、物を作ることだけがデザインでなく、政治や個人の生活をどうしていくかということを考えることも大きな意味でのデザインだと言います。吉永さんがデザインする自身の人生に１０バケットリストは深く組み込まれていると筆者は感じました。

吉永さんは今、「両手に紙袋二つを持って浜松に来た時は、会社は無い、子供達もいない、友達もいない状態でした。ゼロからだから増やせばいいと考えてききましたけど、よくここまで来たなと感慨深い。病気にはなったけれど、今は色んな人達に感謝しています。自分がここ在ることには感謝しかない」と感じています。

最近、吉永さんに電話をしたところ、５月１９日に免疫チェックポイント阻害療法を再開したことと、ピアノの練習を再開したことを教えてくれました。「手が痛くてもピアノの練習をやっちゃう。やっちゃえば結構出来る。やらない方が、手が固まって痛いです」と話してくれました。

事務局　成田　博厚

省庁交渉と院内集会の報告

2023 年５月９日（火）に東京・永田町の衆議院第一議員会館で「中皮腫を治せる病気へ！ アスベスト健康被害の格差とすき間のない補償を求める院内集会&省庁交渉」を開催しました。当日は約 150 名の関係者の参加がありました。

中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会（以下、患者会）では 2006 年３月に施行された石綿健康被害救済法の法案審議の段階から、給付内容の不足などを指摘し、現在に至るまで改善を求めてきました。残念ながら、現在まで給付内容の見直しはされていません。

これに関連する議論が 2022 年６月から、現在まで５回にわたって中央環境審議会環境保部会石綿健康被害救済小委員会（以下、小委員会）でされてきました。当会の役員である右田孝雄（全国事務局）が第１回と２回の小委員会に、小菅千恵子（会長）が３回以降の小委員会に委員として参加して私たちの要求を伝えてきました。しかしながら、経済団体などが参加している小委員会では、十分に議論が深まらず、報告書を取りまとめる段階まで来ていますが、どこまで意味のある合意形成ができるのか不透明な状況です。

そのような背景を受けて、現状について国会議員をはじめとする関係者に広く理解いただき、少しでも報告書の内容を私たちの要求に近づけるべく、冒頭に触れた院内集会と省庁交渉を開催するに至りました。

院内集会には、立憲民主党や日本維新の会、日本共産党の国会議員ら 15 名に加えて（別途、秘書の代理出席が与野党 32 名）、大阪・泉南市や阪南市の市長や市議会議長、副議長の参加がありました。「皆さんに寄り添ってやっていくのが政治の本質ですから、しっかりがんばっていきたい」（Ⅰ.松木謙公衆議院議員）、「我々のできることは全力で尽くして参りたい」（Ⅱ.遠藤敬衆議院議員・日本維新の会国会対策委員長）、「すべての被害者の救済・補償に手が届くように、皆さんとともにがんばっていきたいと思います」（Ⅲ.田村智子衆議院議員・日本共産党）などの決意表明がありました。

Ⅰ.松木謙公衆議院議員

Ⅱ．遠藤敬衆議院議員
（日本維新の会国会対策委員）

Ⅲ．田村智子衆議院議員
（日本共産党）

Ⅳ．清水謙一事務局長
（建設ｱｽﾍﾞｽﾄ訴訟全国連絡会）

また、建設アスベスト訴訟全国連絡会事務局長の清水謙一さん（写真Ⅳ）から「「中皮腫を治せる病気に」、この要求を中心とした皆さん方の要求案、願い、そういうものを私たちも全面的に支持し、一緒に運動していきたい、まずこのことを表明したいと思います」との力強い連帯の言葉をいただきました。

基調講演では、小菅と右田から私たちが求めている要求事項について小委員会の経過に触れながら解説をしました。私たちの骨格の要求事項は、①「中皮腫を治せる病気にする」ための年間 3 億円の研究支援のための法整備、②2005 年の石綿救済法施行以降の諸状況を踏まえた抜本的な給付水準・給付体系の見直しと患者・家族の実情に即した支援、になります。

①に関して言えば、石綿救済制度には、国や企業などの拠出によって石綿健康被害救済基金がつくられ、各種給付に使われています。現在でも約 800 億円の残高があります。この基金の一部、年間で 3 億円を治療研究のために活用すべきだと考えています。運用益も 16 億円出ているので、その活用もあわせて検討すべきです。法律の性格上、この基金は病気になった被害者にお金は払うけれども、病気を治すために活用しましょうということにはなっていません。法律をつくった 2005 年当時、中皮腫はまさに「死」を意味していたので、お金があっても何をすれば良いかという具体的なイメージがわかなかったというのが背景にあるかと思います。現在の国全体の研究への支援状況ではとても不十分です。厚生労働科学研究補助金は年間で 3 千万円程度の支援です。これではいつになっても中皮腫は治せる病気になりません。国の政策によって被害が拡大したことを踏まえて、研究支援のあり方を再構築すべきです。小委員会のヒアリングでも、臨床試験や基礎研究、中皮腫登録などのデータベースの再構築によって効果的・効率的に意味のある研究支援ができると専門家も話されています。年間で 3 億円でも効果的に「中皮腫を治せる病気」にできる支援ができます。

②の問題について、私たちは 2005 年の法施行前から問題を指摘しています。現役世代が病気になって働けなくなったときに月 10 万円程度の給付では生活は成り立ちません。子どもがいるような場合はさらに負担が増します。遺族には事実上、給付がありません。一部の被害者については国の補償などが整備されている状況があります。しかし、労災の対象にもならない被害者がいることも事実で、同じアスベストを吸ったことが原因なのに、どこで、いつ、どんな理由でアスベストを吸ったかによって補償に大きな格差があるのは間違っています。なぜ被害者が責任のつけを全て負わされなければならないのでしょうか。小委員会のヒアリングでも、専門家から泉南アスベスト訴訟や建設アスベスト訴訟など、国や企業の法的責任を土台にして現行制度の見直しをすべきとの提言がなされています。ヒアリングを受けて、法学系委員からも他省庁や国会を巻き込んで議論すべきとの意見が出ています。小委員会の委員長も、現在の制度のあり方について疑問を投げかけています。各方面からこのまま放置していて良いのか、という声が出されています。このような状況を直視し、ただちに法改正をして給付水準と給付体系を見直す必要があります。

院内集会では、これらの課題について会員、国会議員などをはじめ多くの関係者と問題を共有できたと考えています。引き続き、国会議員への働きかけを強め、法改正を求めていきます。

院内集会の終了後、環境省や厚生労働省との省庁交渉では上記の二つの課題を中心にやりとりが進められました。小委員会を通じて、私たちは早急に「中皮腫を治せる病気にする」ための対策を講じるよう求めています。しかし、現場は環境省も厚労省も連携し、必要な対策を講じようとしていません。当日の回答も前向きな回答は一切なく、ほとんどの参加者が落胆したのではないでしょうか。ある患者さんが次のような発言をされていましたが、多くの方がこれに通じる感想を持ったと思います。

「本当に治してあげたいという気持ち、表情、全くないです。感じません。死ぬことの厳

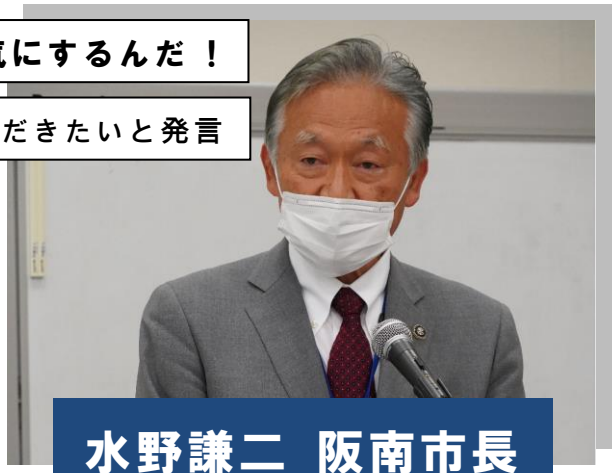
しさとか、追い詰められてる苦しさ。仕事だけやってればいいという、そんな世界じゃありません。どんどんどんどん追い込まれて・・その苦しさから逃げたくても逃げることができないという毎日。そういった厳しさが全く見られないんですよ。話聞いてると。一つでもいいですから、患者が少しでも良くなるような結果。こういうことをやりますってことを持ってきてくれればありがたかったです、今日は。協議するのは誰でもできます。だけど時間がないんですよ、とにかく」。

ただ、そのような中でも一部の部局からは、「どうしても組織上やむを得ない部分もあるかとは思うんですが、横と横の連携を取る必要がある部分はですね。躊躇せず、積極的にやっていきたいと思っております」との発言がありました。後日、担当者からも連絡が入り、協議を継続していくことになっています。

救済制度における石綿ばく露歴を全く考慮しない肺がんの認定基準の問題、建設業などにおける一人親方や自営業者、兵庫県・尼崎市などの一部の地域を除いた環境ばく露者の健康管理体制の整備、労災の休業補償が時効によって支給されない期間の傷病手当金の返戻を求められる問題など、課題は山積みです。こういった課題についても一つずつ解決していく取り組みを続けていきます。小委員会の第６回が６月下旬に予定されています。その場を通じても、私たちの要求を小委員会の報告書に多く取り込めるよう会長の小菅を筆頭に奮闘していきます。引き続き、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。

中皮腫を直せる病気にするんだ！

と力強く取り組んでいただきたいと発言



水野謙二　阪南市長

アスベストの問題が市の歴史の中に根深くあると発言

山本優真　泉南市長

省庁交渉に挑む筆者（左）

中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会　事務局　／　澤田慎一郎

報告：院内集会『労災被災者の生活と権利を守り、労災保険料のメリット制の廃止を!!』

５月 22 日、全国労働安全衛生センター連絡会議が主催して、衆議院第一議員会館にて、院内集会『労災被災者の生活と権利を守り、労災保険料のメリット制の廃止を!!』を開催しました。

この院内集会は、昨年秋から、労災保険制度について労災・職業病の被災者の療養や権利を破壊する改悪が強行されていることに抗議し、議論を呼びかけるために開催されました。全国安全センターの関係者、労働弁護士や労働組合、労働団体の関係者、そして、福島みずほ議員（社民党）、岸まきこ議員（立憲民主党）、宮本徹議員（日本共産党）など、野党の複数の国会議員および秘書が参加しました。

・労災認定や労災支給に対する事業主による攻撃と、厚労省の後退

集会ではまず、嶋﨑量弁護士（あんしん財団事件弁護団）より、この間の事業主による労災認定取り消しを求める動きや、それに関する厚労省の対応などについて報告がありました。昨年 11 月、東京高裁で「事業主は労災支給決定の取り消しを求める訴訟を起こせる」との判決が出されました。また、厚労省は今年１月に、労災認定に伴う労災保険料の値上げに関して、事業主が労災認定への不服を申し立てられるようにする、との制度改悪を行いました。

東京高裁の判決では、療養中の労災被災者が「労災認定を取り消す。支給された補償を国に返せ」と要求される事態が起こりかねません。この判決はまだ確定していませんが（現在、最高裁で係争中）、もし判決が確定し、事業主による労災支給取り消し訴訟が頻発するようになれば、労災被災者や遺族に対して致命的な悪影響を与えることになります。

また、厚労省の新たな制度改悪の方は、「事業主に労災支給の取り消しを求める権利までは認めない」としていますが、事業主が労災認定の内容を公の場で争うことができるようにするものです。そのため、事業主に労災を否定する新たな武器を与え、労働者の生活と権利を脅かす深刻な問題であることに変わりはありません。

・今回の問題の根底にある、労災保険料のメリット制

院内集会では、この問題の原因になっている、労災保険料のメリット制についても焦点をあてました。メリット制は労災の多寡により労災保険料を増減する仕組みです（労災が起こると事業主の保険料負担も増える仕組み）。この間の厚労省での議論や、先ほど紹介した東京高裁の判決では、「事業主に不利益（労災保険料の値上げ）を課すので、労災認定への不服申し立ても認めるべきだ」－という乱暴な主張がされています。

集会の中では、全国安全センターの古谷事務局長が、メリット制について、以下のような分析と問題点を報告しました。

- メリット制については、厚労省などが「労災防止努力の一層の促進に効果がある」と主張してきた。しかし、実際には労災防止効果のデータが示されたことはなく、むしろ「メ

リット制が労災隠しを助長する」との指摘が日本医師会や労働組合からなされてきた。

- メリット制の適用を受ける大企業が保険料の割引を受けやすく、メリット制の適用を受けない小規模零細の事業主の保険料負担が重くなる、いびつな保険料計算が行われている。
- 国際的には、メリット制のような仕組みについて、労災事故を減少させる効果を示すような証拠はないとされており、使用者に労災申請を妨害し労災被災者を攻撃する動機を与える、との指摘がされている。

このように問題の多いメリット制が、労災認定や労災支給の決定をひっくり返そうとする事業主の動きの根拠として、いま使われているわけです。集会の中では、このメリット制を廃止し、労災被災者や遺族の生活と権利を守るべきだとの指摘がなされました。

今後、全国労働安全衛生センター連絡会議では、事業主による労災保険への攻撃に反対の声を上げていくと共に、メリット制の廃止を求める取り組みを進めていく予定です。
ぜひご関心をお寄せください。

集会で発言する筆者

今回の院内集会の模様は、YOUTUBE で配信しています

https://www.youtube.com/watch?v=x2g0XrWfrIA

東京労働安全衛生センター事務局　天野理

第１０回名古屋出入国在留管理局と
東海在日外国人支援ネットワークとの意見交換会

ちょっと緊張する会議であった。今年も何とか入管との意見交換会を開くことができた。開催のための要望書を提出したのが２０２２年１０月、開催されたのは年度末ぎりぎりの２０２３年３月１４日。今年で１０回良く続いたものだ。

今年皆がびっくりしたのは、２０２[illegible]示されなかったこと。それだけではなく[illegible]う理由で多くの個所で数値が示されなか[illegible]るにもかかわらず、統計を取っていない[illegible]議後にも問いただす意見が出、後日入管に[illegible]た。

意図的に数値を示すことを避けたのか、あるいは煩雑な事務処理を少しでも軽減するためなのか不明である。ウイシュマさんの件があったにもかかわらず、救急車を要請した数についても統計を取っていないと回答したのには唖然とした。

要望事項及び意見交換・質疑応答では様々な意見が討議された。スクープというべきはこの会で初めて名古屋入管に今年４月から常勤医師が配置されることが発表されたことだ。ウイシュマさんの件以前から医療体制の充実は当会が強く望んだことであり、現在常勤看護師２名、薬剤師１名准看護師３名配置され、非常勤の眼科・精神科・内科医の診療も続行されている。少しは改善されたが、ひとりの犠牲の上での改善であることが悲しい。

技能実習制度についても何点か討議された。最近技能実習制度に改善の兆しが見えてきたが、まだまだ実習生の非人道的な扱いは続いている。特に特定技能について多くの問題が浮上してきている。移籍の自由が与えられたのに、妨害のために書類を出さないとかペナルティとして金を取るなどの例が出てきている。入管としては違法の指導ができない。罰則がないのでブローカーのやりたい放題となっている。こうした不正に対し入管と厚労省・国土交通省・ 法務省が協力して対応する必要がある。また、職業紹介についてはブローカーが SNS で対応しており職業紹介法の違反かどうかも把握できない。愛知県内登録支援機関のほとんどが無許可の職業紹介をしている実態がある。こうしたことも入管と法務省・厚労省が連携し問題解決せねば現場は混乱するばかりだ。

なお、収容や仮放免についての問題については、多くの問題点が指摘された。県外から面会に来た家族に「この人はもういない。どこに行ったかは言えません。」としか告げない入管の対応はあまりに残酷ではないかという問いに、「移収等の事実を事前に通告した場合、関係者が妨害行為等に及ぶ可能性がある」とか「収容者はもういないので当局は関係ない」と回答するのはあまりに非人間的だと感じた。

なお、入管法改正野党案に仮放免者の子供の在留特別許可が提案されたが、当会も何度もそうした意見を提示した。「在留特別許可の判断は個々の事案ごとに諸般の事情を総合的に判断して行っている。今後も在留特別許可の判断については、個々の考慮すべき事情を適切に判断していく。」というのが入管の回答だが、日本で生まれ育った多くの仮放免者の子供たちが自分の人生を切り開くすべを奪われ絶望的な状態にある。こうした子供たちの事を真剣に考え検討してほしいと心から願う。

大きな成果が得られたわけではないが、様々な困難の中にある人々の現状・実態を伝える

ことができたことはとても重要なことだと思う。入管の人々も同じ人間だ。少しでも改善の手立てを講じてくれるだろうと願うのみである。

興味を持たれた方は、つたない報告集が出来上がっているので目を通していただければ幸いである。※第 10 回入管との意見交換会報告集をご希望の方は事務局までご連絡下さい

労職研会員　高須優子

広岡法浄さんを偲ぶ会

昨年５月２５日に病気でお亡くなりになった、ユニオンみえの前執行委員長だった広岡法浄さんを偲ぶ会が５月２１日に三重県教育文化会館で開催され多数の関係者が参加しました。偲ぶ会は、現在の執行委員長の江川正典さんが挨拶をしたあと、来賓挨拶、献杯、会食後、参加者全員が広岡さんについてスピーチする形で行われました。

広岡法浄さん

偲ぶ会の冒頭、ユニオンみえ執行委員長の江川正典さんが、２０２１年１２月１９日にホテルグリーンパーク津で開かれたパーティー（つれあい、闘い続けた５０年の集い）が広岡さんの皆さんへのお別れでした」と話しました。

その後、来賓挨拶に立った全国ユニオン（全国コミュニティ・ユニオン連合会）の関口達矢さんは、「広岡さんは湿っぽいのが嫌いな人。皆さんで頑張ってユニオン活動を盛り立てて欲しい」と話しました。

社民党参議院議員の福島瑞穂さんは、「広岡さん、長い間労働、平和活動をどうもありがとう。私たちも広岡さんの遺志を継いで活動を続けていきます」と話しました。

コミュニティーユニオン東海ネットワークの浅野文秀さんは、「広岡さんには長年、コミュニティーユニオン東海ネットワークをリーダーとして引っ張っていただいた。全国、東海地方のことを考えて活動する広い視野を持ち、失敗を恐れずにポジティブに活動していた姿から多くを学んだ」と挨拶しました。

広岡さんがユニオンみえの執行委員長に就任する前の委員長だった塩田至さんは、「広岡さんとは、３６，７年前に知り合った。私が所属していた鈴鹿さくら病院分会の活動方針については随分、広岡さんとぶつかった。大局的な判断が出来る人材は当時、三重一般労働組合

にはおらず、彼がユニオンみえをいっぱい作り上げた」と話しました。

会食後に行われた参加者のリレースピーチで筆者は、２０２０年５月１日に津市からの執拗な自粛要請を跳ね除け、ユニオンみえがお城西公園で開催したメーデーの集会と派遣村における広岡さんの思い出をお話ししました。デモと派遣村を行う前に行われたメーデー集会において、広岡さんが、「コロナが世界を震撼させています。医療労働者、介護労働者、清掃労働者、タクシー運転労働者など様々な労働者が命懸けで仕事をしています。その結果、多くの労働者の仲間の命が奪われている。亡くなった労働者の無念はいくばかりか計り知れない。亡くなった労働者の思いを汲み、さらに、今、頑張っている労働者に連帯する意味を込めて連帯の手を振りたい」と参加者に呼びかけ、全員で事前に配られた赤い布を持ち団結の手を振る一幕がありましたが、集会終了後に広岡さんより、急に思いついてメーデーの朝に事務所で赤い布を自身で切って準備したことを聞かされ筆者はとても驚きました。広岡さんは、常に様々なアイデアを考えていた活動家でした。

閉会の挨拶で、広岡さんのお連れ合いだった千佳子さんは、「広岡は、ウクライナでの戦争について、泥沼化せず早期解決出来ないか心にかけていた。自分が病気になったことは運が悪かったけれど、医療にかかり、色んな手立てを受けることは出来る。思いがけない戦争により、ウクライナで多くの人々が傷つき亡くなっていくことはいたたまれない。何とか平和を回復して欲しい」と話していたことを紹介してくれました。

偲ぶ会において、広岡さんがユニオンみえの機関紙に毎号連載していたエッセイ、「いいたいほうだい（放言）」を１冊にまとめた遺稿集が参加者全員に配られました。

コロナ禍のメーデーで連隊の赤い布を振る広岡法浄さん（右）

事務局　成田　博厚

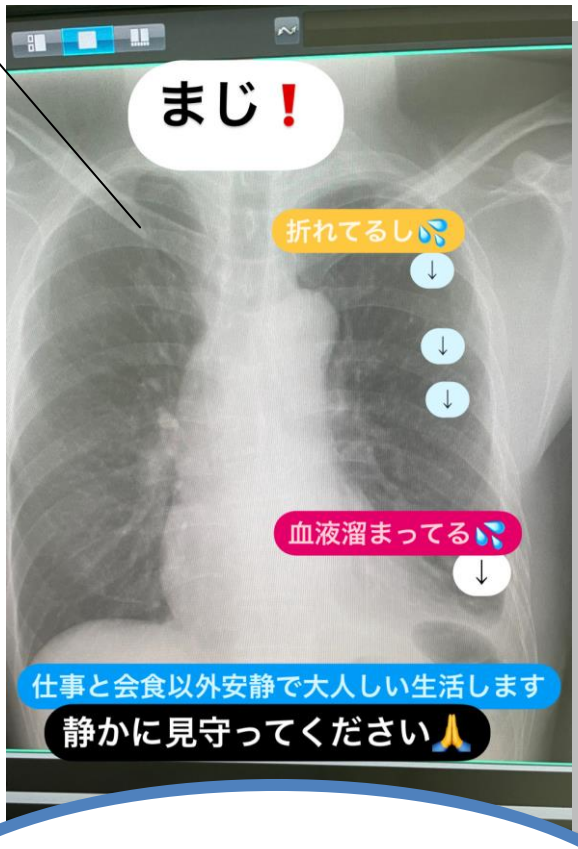
酒は飲んでも飲まれるな！

人生初の骨折は、左肋骨多発骨折（４本）でした。

朝気がついたらというか、気が付かずガレージで倒れているところを妹に発見されました！

【経過・観察】

まだお酒が残っていたせいか、10 時半くらいまでは何も症状はなしでした。10 時半を過ぎると左胸に痛みが出現してきて、翌日、超音波検査をするとなんと肋骨 3 本が折れているのを確認できました。翌週には肺に血液が溜まるほどの怪我でした。この原稿を書いている頃には、3 週間が過ぎ骨も繋がってきてやっと落ち着きました。



「酒は飲んでも飲まれるな」
大事な教訓です ！

代表　森 亮太

コロナワクチン接種の予約がスタートした時は、予約電話が繋がらない、ネットも繋がらないという事態が発生しました！

瑞穂区役所にも１００人以上が殺到し、職員が対応に追われておりました。私はすぐに現場に駆けつけましたが、予約ができず不安に感じておられる多くのお年寄りの方を見て、大変心を痛めました。

健康福祉局に職員の派遣を求めつつ、今私に何かできないかと考え、並ぶのを諦めて帰られる方々に、予約のお手伝いをしました。この経験を活かして、豊岡学区とも協力し、ワクチン接種予約お手伝い会を開き、合計で１００件以上の予約のお手伝いができたと記憶しています。その後、名古屋市議会本会議でコールセンターの回線数を増やすことを求め、回線数を４００回線にまで増やすことができました。

また、濃厚接触者は陽性者と同様に外出できず、食事の確保が難しいとの声をいただき、当時所属していた財政福祉委員会で、コロナ自宅療養者向け配食サービスの対象者拡大を求め、濃厚接触者にまで対象を拡大できました。

他にも、重度障害者タクシー利用助成制度の拡充や化学物質過敏症の相談窓口の設置、がん患者の乳房補正具購入助成、中小企業のデジタル化を進める補助金、そして、ふるさと納税を活用した桜名所寄付金の創設なども、ひとりひとりの声を受け止めて名古屋市政全体に反映した取り組みです。

さらに、ひとりひとりの声を受け止めていくため、市民の皆様と見える関係を作るために、市政座談会は４３回開催し、街頭活動については昨年１２月１７日に新瑞橋交差点で１０００回を達成し、選挙戦前までに１１３６回行うことができました。

こういった地道な活動ひとつひとつを通じて、市民の支援の輪が広がり、６０２１票から８１７９票へと前回よりも多くの有権者から信任を受けることができたと考えています。

一方で、今回の統一選挙では、日進市や大府市では２６歳、２７歳の最年少候補がトップ当選を果たすなど若い候補の躍進が目立っていました。枠にとらわれない柔軟な発想や行動力、政治不信にある現状を新しい力で変えて欲しいとの有権者の思いがあったのではないでしょうか。

私も瑞穂区内最年少候補でありましたし、世襲候補でもなければ大きな組織を背景にした候補でもないことを踏まえて、新しい力への期待を私自身も受けていたのではと考えています。

ひとりひとりに向き合う議員活動や頑張るあなたを独りにしないへの思い、新しい力への期待をしっかりと受け止めて、これからの４年間、名古屋市会議員として、職責を果たしていきます。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

当確の瞬間

選挙事務所開き

演説会

労職研

ニュース記事

2023.4.9 統一地方選挙

名古屋市会議員選挙を振り返って

名古屋市会議員　久田　邦博（写真右側）

参議院議員
辻本清美氏

久田邦博　市議

『地盤・看板・カバンなし』で名古屋市会議員選挙で初当選を果たした（2019年4月7日）当団体運営委員の久田邦博　市議

今年４月９日に行われた市会議員選挙においてトップの得票数を得て再選されました。今号では、久田さんに今回の選挙やこれまで自身取り組んでこられ新型コロナ等に関する政治活動について報告していただきました。

選挙結果（投票率３２、１１％）

１、　久田くにひろ（立憲民主党）
　　８，１７９票（前回６，０２１票）

２、　ふじた和秀（自民党）
　　７，７１７票（前回９，２９３票）

３、　金城ゆたか（減税日本）
　　３，６３０票

４、　土居よしもと（無所属）
　　３，５３４票（前回３，８００票）

５、　前田えみこ（日本維新の会）
　　２，９５９票（前回６，７２６票）

６、　田中知通（日本共産党）
　　１，８７１票（前回２，３１２票）

いつもありがとうございます。
名古屋市会議員の久田くにひろです。

激戦区での闘い!!

瑞穂区選挙区では定数３人対して、地盤が強固にある保守系世襲候補や大企業をバックに持つ組織内候補など６人が立候補する激戦区でしたが、これまでのひとりひとりに向き合う議員活動や頑張るあなたを独りにしないへの想いに共感をいただいて、２期目の当選を果たすことができました。

改めて、４年間を振り返ると、大半の期間がコロナ禍であり、人と人との接点を持つことが難しい時代でした。そんな時代であるからこそ、ひとりひとりに寄り添うこと、ひとりひとりの声を大切にすることが政治にとって必要だと考え

選挙告示日

桃太郎街宣

街頭演

労職研の活動

2023 年 4 月					
	14 日	名古屋労職研事務局会議		28 日	名古屋労職研事務局会議

2023 年 5 月					
	9 日	患者と家族の会『院内集会と省庁交渉』		21 日	広岡法浄さんを偲ぶ会
	22 日	メリット制に関する院内集会		26 日	名古屋労職研事務局会議

【労職研　会費・カンパ振込先】
郵便振替　口座番号　00860－5－96923
加入者　　名古屋労災職業病研究会

発行　　名古屋労災職業病研究会
発行者：森　亮太
名古屋市昭和区山手通 5-33-1　杉浦医院 4 階
Tel./Fax.052-837-7420
e-mail: roushokuken@oregano.ocn.ne.jp
http://nagoya-rosai.com/